

途上国の教育環境について①

1. はじめに

初めまして。この報告では、主に**マダガスカル共和国**というアフリカ南東の島での経験をお伝えします。生活環境や文化、政治、子どもたちの日々の生活、教育、途上国の生活から見えてくるもの、日本の教育・・・。外から見ることで新たに気づいたことがたくさんありました。自分の経験を皆様にお伝えすることで、何かしらのプラス発信ができればと思っています。

2. 夢～青年海外協力隊として～

私は高校生の頃に1つの夢を抱いていました。「将来は、**沙漠化が進行している地域に木を植えたい。沙漠化緑化に携わりたい**」という夢です。大学に進学し、農学について学ぶうちに、日本の農業のすばらしさに気づくことができました。

植林をしたい、という夢はまだありましたが、この日本のすばらしい農業技術を外へ発信したい、そう考え、**青年海外協力隊**への参加を決めました。

大学卒業後、2ヵ月半の語学訓練を受け、2007年6月にマダガスカル共和国へ行くことになりました。任期は2年。マダガスカルで農業指導をすることが自分の任務でした。

マダガスカルの主食は**お米**。なんと、世界の米消費国なのです。消費は世界一でも、その生産性はとても低く、輸入に頼っているのが現状です。その生産性を上げることが1つの目標でした。

2年の間、**稲作の農業技術はもちろん、現地で調達可能な安価な有機堆肥づくりの模索、稲以外の畑作指導、新たな指導者の育成等、農業や人材育成に関連する活動**が主な内容でした。

写真は、マダガスカルでの活動の様子です。日本のように農場が区画整備されておらず、棚田のような田んぼが広がっています。

機械や化学肥料がないため、農作業はすべて人の手で。まるで日本の昭和時代を思い出させます。任期中にマ国を訪れた母も同じようなことを言っていました。

農作業は家族や親族が助け合って行います。助け合いが当たり前となっている文化でした。収穫時の休憩ではバケツで運んできたお昼ご飯を皆に振る舞い、一緒に食べます。ご近所さんや親族が一同に集まる良い機会にもなっているようです。

技術指導においては、任地の各村のリーダーと共に活動しました。目標は収量の増加ですが、目的のひとつに「**指導者の育成**」も含まれています。慣れないマダガスカル語でのコミュニケーションでしたが、農民にとっても「**農業を勉強する**」良い機会になったようでした。

～余談～

各村での指導は「**青空教室**」でしたが、日本の布ガムテープはどこでもくっつきました。日本の技術はやはり素晴らしいですね。

昭和の日本？
マダガスカルのお米作り



農業技術指導

